

## 外国史 I

担当教員 藤波 潔

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 日文・英米以外

## 【授業のねらい】

現在の歴史教育では、諸地域間の交流を通じた歴史理解が求められており、社会科教員は国家の枠組みを超えた「世界史的な視点」で歴史を理解し、伝達する能力が必要となっている。そこで本講義では、19世紀～20世紀初頭の極東国際関係史を取り扱い、一国史的な枠組みを越えた広範な視点に基づく時代の理解、教員になるために不可欠な歴史知識の習得、「覚える歴史」とは異なる「考える歴史」という思考様式の育成を目的とする。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	東アジア国際秩序の変容①
3	東アジア国際秩序の変容②
4	東アジア国際秩序の変容③
5	東アジア国際秩序の変容④
6	諸列強の極東進出①
7	諸列強の極東進出②
8	諸列強の極東進出③
9	諸列強の極東進出④
10	日清戦争と国際政治①
11	日清戦争と国際政治②
12	日清戦争と国際政治③
13	日露戦争前の極東地域①
14	日露戦争前の極東地域②
15	日露戦争前の極東地域③
16	学期末試験

## 【履修上の注意事項】

- ① 本講義は、中学校社会科および高等学校地理歴史科の教員免許を取得するための必修科目である。  
 ② 本講義を履修するための前提条件はない。 ③ 出席は毎回必ずとる。  
 ④ 原則として追試験・再試験は実施しない。  
 ※抽選となった場合は、4年次より優先して選抜する。

## 【評価方法】

出席状況（30%）と期末試験（70%）による総合評価。

## 【テキスト】

特定のテキストは使用せず、レジュメを配付する。

## 【参考文献】

配付するレジュメに記載する。

## 外国史Ⅱ

担当教員 藤波 潔

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

高等学校の地理歴史科教員は、多面的な歴史理解能力とともに、歴史事象、とくに近現代史に対するより深い専門的知識が求められる。また、歴史教育をめぐる昨今の社会状況を鑑みた場合、教員自身が「なぜ世界史を学ぶ必要があるのか」について語ることを求められている。そこで、本講義では19世紀ヨーロッパ史を取り扱い、「ヨーロッパ」地域が総体として有する歴史的特性の多面的理解、19世紀ヨーロッパ史に関する専門的知識の習得をめざすとともに、現在との関係で歴史を考察する能力の育成を目的とする。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	ウィーン体制の背景①
3	ウィーン体制の背景②
4	ウィーン体制の背景③
5	ウィーン体制の成立①
6	ウィーン体制の成立②
7	イギリスの自由主義①
8	イギリスの自由主義②
9	イギリスの自由主義③
10	1848年革命①
11	1848年革命②
12	1848年革命③
13	帝国主義のヨーロッパ①
14	帝国主義のヨーロッパ②
15	帝国主義のヨーロッパ③
16	学期末試験

### 【履修上の注意事項】

- ① 本講義は、高等学校地理歴史科の教員免許を取得するための必修科目である。しかし、中学校社会科教員を目指す者も、歴史の多面的な理解のために、受講を推奨する。  
 ② 本講義を履修するための前提条件はない。（外国史Ⅰを未履修でも受講できる）  
 ③ 出席は毎回必ずとる。 ④ 原則として追試験・再試験は実施しない。  
 ※抽選となった場合は、高校地歴科免許取得希望者より優先して選抜する。

### 【評価方法】

出席状況（30%）と期末試験（70%）による総合評価。

### 【テキスト】

特定のテキストは使用せず、レジュメを配付する。

### 【参考文献】

配付するレジュメに記載する。

# 憲法 I

担当教員 儀部 和歌子

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

## 【授業のねらい】

日本国憲法の概要を、具体的な事例を通して理解することを目標とします。憲法をめぐる最近の諸問題についても取り上げる予定です。というのも、今、憲法に関しては様々な議論がなされています。しかし、実際は、憲法の基本を理解しないままの議論も多くなされていると感じています。そこでみなさんには、「憲法とは何か」、また「憲法に関する基本的なことは何か」を正確に理解していただいたうえで、今なされている議論についてご自身で判断していただけるよう、できるだけ多くの情報を提供したいと考えています。

## 【授業の展開計画】

第 1 回	ガイダンス	第 2 1 回	被疑者・被告人の人権
第 2 回	憲法とは何か	第 2 2 回	人間らしく生きる権利
第 3 回	今話題の国民投票法（案）について	第 2 3 回	教育を受ける権利
第 4 回	基本的人権の歴史	第 2 4 回	労働者の権利
第 5 回	日本国憲法と明治憲法とコスタリカ憲法（?!）	第 2 5 回	統治機構の基本原則－権力分立
第 6 回	日本国憲法の基本原則①－国民主権	第 2 6 回	国会
第 7 回	日本国憲法の基本原則②－平和主義	第 2 7 回	内閣
第 8 回	日本国憲法の基本原則③－基本的人権の尊重	第 2 8 回	裁判所
第 9 回	三つの基本原則の関係（総論部分のまとめ）	第 2 9 回	憲法改正について＋もう一度考える －「憲法とは何か」
第 1 0 回	人権は誰に対して保障されているのか（1）	第 3 0 回	試験
第 1 1 回	人権は誰に対して保障されているのか（2）		
第 1 2 回	人権を制約することは許されるか		
第 1 3 回	憲法に書かれていない人権－新しい人権		
第 1 4 回	不合理な差別とは		
第 1 5 回	思想・良心の自由		
第 1 6 回	表現の自由の意味と内容		
第 1 7 回	表現の自由をめぐる諸問題（1）		
第 1 8 回	表現の自由をめぐる諸問題（2）		
第 1 9 回	職業を選び行う自由		
第 2 0 回	身体の自由と適正手続		

## 【履修上の注意事項】

毎時間講義終了後に講義の感想を書いていただきます（出欠点検）。3分の1以上欠席した場合、単位を認定しません。

## 【評価方法】

レポート、学期末に行う論述試験に出席状況を加味して行います。

## 【テキスト】

教科書は使用しません（講義の際にプリントを配布する予定）。

## 【参考文献】

「勇気の源はなんですか？」（伊藤千尋・憲法9条・メッセージプロジェクト） / 「高校生からわかる日本国憲法の論点」（伊藤真著・株式会社トランスビュー） / 「憲法入門」（伊藤正己著・有斐閣双書）

## システム設計実習

担当教員 山根 俊昭

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 実験実習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本講義は、プログラミングスキルのみならず情報システムを構築する一連のプロセスを学習することを目的とする。まず、実際に運用されている情報システムを例として取り上げ、情報システム化の技法、情報システムの設計、ソフトウェア開発の基礎といったシステム開発に必要な知識を学び、また、開発後の情報システムの管理（運用保守）の重要性について学ぶ。

## 【授業の展開計画】

本講義では、データベース機能を核としたシステム要求の調査分析から基本設計と詳細設計を含めたシステム設計、プログラミング、そしてソフトウェアテストまで、情報システムの構築を実際に行う。授業計画は以下に示す通りであるが、状況に応じて変更することもあるので留意すること。

週	授 業 の 内 容
1	はじめに（情報システム設計実習の概要）
2	情報システム化の技法
3	情報システム設計の基本的フェーズ
4	ソフトウェア開発の基礎
5	情報システムの管理
6	データベース：情報の整理と情報検索
7	座学講義まとめ及び開発実習の概要
8	システム開発実習(1)：システム設計（システム要求の調査と整理）
9	システム開発実習(2)：システム設計（基本設計）
10	システム開発実習(3)：システム設計（詳細設計）
11	システム開発実習(4)：プログラミングとデバッグ
12	システム開発実習(5)：プログラミングとデバッグ
13	システム開発実習(6)：プログラミングとデバッグ
14	システム開発実習(7)：ソフトウェアテスト
15	総括
16	

## 【履修上の注意事項】

出席日数が3分の2に満たない者には原則として単位を与えない。

## 【評価方法】

成績は、期末試験、レポート、出席日数により総合的に評価する。

## 【テキスト】

開講時に指定する。

## 【参考文献】

開講時に指定する。

## 自然地理学概論

担当教員 前門 晃

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 日本文化・英米言語学科以外対象

### 【授業のねらい】

私達が生活する地球の表面では、さまざまな自然現象がみられ、私達の生活は自然現象から大きな影響を受けている。その自然現象も地球の歴史を通して変化している。地球の表面にみられる気候、土、地形、水について、私達の住んでいる沖縄からみることによって、自然の認識の仕方について考える。

### 【授業の展開計画】

- 1 自然地理学とは？地形のでき方
- 2 サンゴ礁を育む島々の気候
- 3 島をとりまくサンゴ礁とその成り立ち
- 4 海面と地殻の変動を記録する石灰岩段丘
- 5 溶けゆく島々（石灰岩の溶食）
- 6 岩石の風化
- 7 溶かされたサンゴ礁—熱帯カルスト
- 8 隆起サンゴ礁の赤い土—島尻マージ
- 9 風化物質の移動（地すべり、山崩れ）
- 10 島尻層群泥岩の丘陵

### 【履修上の注意事項】

講義のまとめ、講義に対する質問を書かせます。期末試験は自筆のノートのみ持ち込み可で行う。

### 【評価方法】

成績評価は期末試験、出席点により行い、それぞれ70点、30点とする。

### 【テキスト】

使用しない（以下参考文献）町田洋・太田陽子・河名俊男・森脇広・長岡伸治（2001）：『日本の地形7 九州・南西諸島』東京大学出版会

### 【参考文献】

河名俊男（1988）『琉球列島の地形』新星図書出版/氏家宏編（1990）『沖縄の自然—地形と地質—』ひるぎ社/中村和夫・氏家宏・池原貞雄・田川日出夫・堀信行（1996）『日本の自然 地域編8 南の島々』岩波書店

## 自然地理学概論

担当教員 -上原 富二男

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## 自然地理学特講

担当教員 前門 晃

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 法学部・経済学部・社会文化対象

### 【授業のねらい】

私達が生活する地球の表面はさまざまな姿をしており、その姿は地球の歴史を通して変貌してきた。現在私達が目の前にする地球表面の姿がどのようにして形作られてきたのか、地面の姿のできかたを考える。

### 【授業の展開計画】

- 1 河川の作用
- 2 土壌侵食
- 3 河谷地形
- 4 河床堆積物
- 5 河岸段丘
- 6 扇状地
- 7 波の作用
- 8 海岸地形
- 9 海食崖の後退
- 10 波食棚表面の変形

### 【履修上の注意事項】

冬休みにレポートを課す。レポートのテーマは冬休みの前の授業時間に知らせる。期末試験は自筆のノートのみ持ち込み可で行う。

### 【評価方法】

成績評価は期末試験、課題レポート、出席点により行い、それぞれ50点、30点、20点とする。

### 【テキスト】

使用しない

### 【参考文献】

町田 貞 (1984) : 『地形学』 大明堂、河名俊男 (1988) : 『琉球列島の地形』 新星図書出版、佐藤 久・町田 洋 (1990) : 『地形学』 朝倉書店

## 自然地理学特講

担当教員 -上原 富二男

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】



## 職業指導

担当教員 崎濱 秀政

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

### 【授業のねらい】

「職業指導から進路指導へ」、さらに「進路指導からキャリア教育へ」と推移してきた社会的、歴史的背景を踏まえ、その変遷を概観し、ライフステージをとおしてキャリア教育の必要性を学ぶ。またキャリア教育の実践のための理念や基本的な考えを理解する。

### 【授業の展開計画】

①国内外のキャリア教育の歴史を遡り現状と課題の理解 ②進路指導・キャリア教育の目的、方法、対象、活動領域、実践、評価の理解 ③学校、教職員の役割、それに伴う関係機関の連携・協力のあり方を理解 ④ライフステージに合った発達段階、生活実態に即した指導方法の理解 ⑤経済社会の状況と雇用動向、職業安定機関の役割の理解

1週	オリエンテーション	
2週	職業指導・進路指導・キャリア教育の歴史と展開 (アメリカ)	
3週	職業指導・進路指導・キャリア教育の歴史と展開 (日本)	
4週	職業指導・進路指導・キャリア教育の基礎理論	
5週	職業指導・進路指導の概念と定義	
6週	キャリア教育の概念と定義	
7週	進路指導の活動領域	
8週	キャリア教育の諸活動	
9週	進路指導・キャリア教育の組織と運営	
10週	進路指導・キャリア教育の計画と実践 (小中学校)	
11週	進路指導・キャリア教育の計画と実践 (高等学校)	
12週	特別支援学校の進路指導	24週 進路指導・キャリア教育のアセスメントの意味と目的
13週	個別の教育支援計画の作成	25週 進路指導・キャリア教育のアセスメントの対象と領域
14週	個別の教育支援計画の実践	26週 進路適性のアセスメント
15週	特別支援学校と関係機関の連携	27週 演習 (面接)
16週	学校と家庭と連携協力	28週 演習 (アセスメント)
17週	学校と地域社会との連携協力	29週 演習 (会議)
18週	学校と関係機関との連携協力	30週 キャリア教育のまとめ
19週	スクールカウンセリングの性格と機能	31週 まとめ
20週	キャリア・カウンセリングの必要性	
21週	学級担任 (教師) の役割	
22週	キャリア・カウンセリングの特徴、方法の留意点	
23週	スーパーバイザーの役割とスーパービジョン	

### 【履修上の注意事項】

教職員を目指す学生を対象とする

### 【評価方法】

活動の内容 (授業への取り組み)	20%
演習の内容	30%
課題レポートの内容	50%

### 【テキスト】

特に指定はない。適宜資料を配布する。

### 【参考文献】

進路指導・キャリア教育の理論と実践 (日本文化科学社出版)

## 情報通信ネットワーク実習

担当教員 小渡 悟

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 実験実習

単位数 1

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

産業社会における情報通信ネットワークの技術基盤を理解し、実習を通してネットワークシステムの構築と運用と保守管理等について理解を深める。

### 【授業の展開計画】

実習の内容としては、LANボードを組み込んだパソコン組立て、TCP/IPによるインターネット並びにイントラネット接続、ネットワーク上への情報発信、アップロード等のためのサーバー接続と情報セキュリティ設定等を行う。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・演習環境の準備
2	Linux OSのインストール・ストレージ管理
3	ネットワークシステム概説
4	ネットワークインタフェースの確認と設定
5	Webサーバの動作確認・リモート接続
6	DNSサーバ概説
7	DNSサーバの構築
8	Webサーバ概説
9	Webシステムのアクセス制御
10	バーチャルホストの構築
11	メールサーバ概説
12	メールサーバの構築
13	メールの送受信
14	ネットワークセキュリティ
15	総まとめ
16	総合演習・期末試験

### 【履修上の注意事項】

CentOS (Linux) を使用します (Windowsではありません)。「情報通信ネットワーク論」を履修した者の受講が望ましい。演習はグループで行い、演習レポートは各人で作成し提出すること。

### 【評価方法】

出席回数が3分の2未満は不可。調査課題・期末試験の成績を重視し、総合的に行う。

### 【テキスト】

「Linuxサーバー構築標準教科書」エルピーアイジャパン (LPI-Japan)

### 【参考文献】

「Linux標準教科書」エルピーアイジャパン (LPI-Japan)

## 人文地理学概論

担当教員 宮内 久光

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

## 【授業のねらい】

学習指導要領では地理Bの系統地理学的考察として、「自然環境、資源、産業、都市・村落、生活文化」の大項目が設定されており、「自然環境、資源」を除いた「産業、都市・村落、生活文化」が人文地理学の範疇となる。本講ではこのうち、「産業」に関して講述する。学習指導要領解説によると、地理的な見方の基本として「どこに、どのようなものが、どのように広がっているのか、諸事象を位置や空間的な広がりとの関わりでとらえ、地理的事象として見いだすこと。

## 【授業の展開計画】

【授業のねらい】の続き～

また、そうした地理的事象にはどのような空間的な規則性や傾向性があるのか、地理的事象を距離や空間的な配置に留意してとらえること。」(200-201p)としている。これを踏まえ、本講義では農業、工業、卸売小売業、サービス業に関する空間的な規則性や傾向性について、古典的な立地理論や空間理論を紹介し、それが現代の日本や沖縄の状況に理論が適合できるのか、わかりやすく論じるものである。

なお、講義では将来社会科系教師として教壇に立った場合に利用できるシミュレーション教材を使用する予定である。そしてこの講義を通して、受講生は社会科系教員として必要な「地理の見方」や「地理的考え方」が身に付くと期待される。

## 授業の展開計画

- 1 週目、人文地理学とはどのような性格の学問なのか。また、社会科・地歴科の地理分野で人文地理学はどのように扱われるのか。さらにその中で立地論や移動論の位置づけを論じる。
- 2 週目、チューネンの農業立地論の概要を論じる。
- 3 週目、チューネン理論の意義と日本や沖縄の農業の現状を検討する。
- 4 週目、シミュレーション教材「カリフォルニア州の農民行動」を行う。
- 5 週目、ウェーバーの工業立地論の概要を論じる。
- 6 週目、ウェーバーの工業立地論を輸送費と労働費の両面から適用事例を考察する。
- 7 週目、現代日本および沖縄県における各産業の工場立地をウェーバーの工業立地論から検討する。
- 8 週目、沖縄県からの期間工移動のメカニズムについて地域労働市場と絡めて論じる(その1)。
- 9 週目、沖縄県からの期間工移動のメカニズムについて地域労働市場と絡めて論じる(その2)。
- 10 週目、沖縄県から期間工として移動した個人に焦点をあてて、その行動を論じる。
- 11 週目、流通の側面から見るコンビニエンスストアの展開について検討する。
- 12 週目、シミュレーション教材「コンビニエンスストアの立地」を行う。
- 13 週目、沖縄県におけるコールセンターの立地について論じる。
- 14 週目、コールセンターで働く女性について聞き取りから労働と生活について論じる(その1)。
- 15 週目、コールセンターで働く女性について聞き取りから労働と生活について論じる(その1)。

## 【履修上の注意事項】

登録上限数を超えても、受講を強く希望する学生は受講を認めます。  
プリント学習なので、ノートは不要です。

## 【評価方法】

講義への出席が10回以上の者が、レポートの内容(40%)と学期末試験の結果(60%)により評価される。

## 【テキスト】

テキストは使用しない。適宜レジュメを配布する。

## 【参考文献】

松原 宏(2002):『立地論入門』古今書院/神頭広好(2001):『都市と地域の立地論 立地モデルの理論と応用』古今書院/富田和暁(1996):『地域と産業』大明堂/その他、必要に応じて授業中に紹介する。

## 人文地理学特講

担当教員 宮内 久光

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

学習指導要領では地理Bの系統地理学的考察として、「自然環境、資源、産業、都市・村落、生活文化」の大項目が設定されており、「自然環境、資源」を除いた「産業、都市・村落、生活文化」が人文地理学の範疇となる。本講ではこのうち、「都市・村落、生活文化」に関して講述する。学習指導要領解説によると、「地理的事象はその地域でいつ頃からみられたのか、これからもみられるのか、地域の変容をとらえ、地域の課題や将来像について考えること」(201p)としている。

## 【授業の展開計画】

【授業のねらい】の続き～

これを踏まえ、本講義では地形図の読図を通して、都市や村落の形態や構造について都市地理学や集落地理学の理論を現実社会に合わせて講述する。また、新旧の地形図を比較することで、地域の変容や地域の課題を考察する。生活文化については、事例として取り上げる3つのタイプの村落（砺波平野の散村集落、沖縄の平民百姓村と氏族百姓村、座間味島の村落）に居住する人々の日常生活や行動について論じる。この講義を通して、受講者は地形図への苦手意識が軽減されると同時に、中学社会や高校地歴科の教員として必要な「地理的見方」や「地理的考え方」が身につけられると思われる。

## 授業の展開計画

- 1 週目 人文地理学とはどのような性格の学問なのか。また、社会科・地歴科の地理分野で人文地理学はどのように扱われるのか。さらにその中で都市や農村、生活文化の位置づけを論じる。
- 2 週目 地形図を用いた図上計測（距離、面積）を行う。
- 3 週目 地形図を用いた図上計測（角度）を行う。
- 4 週目 計画都市・札幌の都市構造と都市形成について地形図から読図する。
- 5 週目 城下町・金沢の空間形成について絵地図から読図する。
- 6 週目 城下町・金沢の都市構造と都市問題について地形図から読図する。
- 7 週目 那覇の都市構造と都市形成について地形図から読図する。
- 8 週目 発展途上国の都市の内部構造について論じる。
- 9 週目 都市とイメージの関係をメンタルマップにより考察する。
- 10 週目 村落の形態と分類について論じる。
- 11 週目 散村・砺波平野の読図と住民の生活について論じる。
- 12 週目 沖縄の集落の成立と形態的特徴を地形図から読図する。
- 13 週目 平民百姓村と氏族百姓村における生活文化を比較考察する。
- 14 週目 座間味島の観光化と観光行動について論じる。
- 15 週目 座間味島に嫁いだ県外出身女性の生活と自己評価について論じる。

## 【履修上の注意事項】

登録上限数を超えても、受講を強く希望する学生は受講を認めます。  
プリント学習なので、ノートは不要です。

## 【評価方法】

講義への出席が10回以上の者が、レポートの内容（40%）と学期末試験の結果（60%）により評価される。

## 【テキスト】

テキストは使用しない。適宜レジュメを配布する。

## 【参考文献】

由井義通他編（2004）：『働く女性の都市空間』古今書院／北川健次編（2004）：『現代都市地理学』古今書院／高橋・菅野・村山・伊藤編（1997）：『新しい都市地理学』東洋書林 その他必要に応じて授業中に紹介する

## 地誌 I

担当教員 小川 護

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

地誌学は、直接的に個々の地域をその研究対象とし、その地域構造を明らかにして、その構成に関する諸法則、傾向を明らかにすることを目的とする。その研究方法として、地域的に相違あることによって地域区分を行い、二つ以上の地域についての比較が必要になってくる。地誌 I では、この立場からの研究・調査方法について説明したあと、北海道を事例地域として取り上げ、地誌的アプローチを試みる。必要に応じて、パワーポイント(スライド)やビデオ教材の利用、参考文献の紹介、講義関連資料等の配布も随時行う予定である。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	地誌とはなにか
2	北海道の自然①
3	北海道の自然②
4	北限の農業①
5	北限の農業②
6	整然と計画された都市①
7	整然と計画された都市②
8	工業と炭鉱の盛衰①
9	工業と炭鉱の盛衰②
10	北洋漁業の変遷
11	北海道の冬の暮らしー耐える冬から楽しむ冬へー
12	北海道開拓の歴史①
13	北海道開拓の歴史②
14	アイヌについて
15	北海道の地域開発と今後の諸課題
16	テスト

## 【履修上の注意事項】

当科目は、教職課程の科目であるため、それ以外の学生の受講は原則として認めない。

追試、再試は行わない。

【日文・英米以外対象】

※地誌 I は中学校社会科、高校地歴科免許状の必修科目

## 【評価方法】

成績評価は、数回のレポートの提出と出席によって総合的に判断する

## 【テキスト】

帝国書院『新詳高等地図』1800円、帝国書院『新詳資料地理の研究』1800円

## 【参考文献】

青野寿郎・尾留川正平(1975)「日本地誌2北海道」(二宮書店)立正大学地理学教室編『日本の地誌』古今書院 3000円、大明堂編集部(1985)「新日本地誌ゼミナール1北海道」(大明堂)

## 地誌Ⅱ

担当教員 小川 護

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

地誌学は系統地理学と並んで地理学を形づくる重要な部門の一つである。本講義では、オーストラリアの地誌について学習する。必要に応じて、ビデオ、パワーポインターの利用、参考文献の紹介、資料プリントの配布も適宜行う。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オーストラリアの地理的概観とその歴史
2	オーストラリアの自然-気候
3	オーストラリアの自然-生物相
4	オーストラリアの地形と土壌
5	オーストラリアの産業①農業
6	オーストラリアの産業②畜産業
7	オーストラリアの産業③鉱工業
8	オーストラリアの都市地域について
9	アボリジニーと多文化主義
10	オーストラリアの交通
11	オーストラリアの教育制度・政治体制
12	オーストラリアと日本
13	太平洋の島々①自然と人々の暮らし
14	太平洋の島々①文化と産業
15	まとめ
16	

## 【履修上の注意事項】

当科目は、教職課程の科目であるため、それ以外の学生の受講は原則として認めない。追試、再試は行わない。

【法律学科・地域行政学科・地域環境政策学科・経済学科・社会文化学科対象】

※地誌Ⅱは高校地歴科免許状必修科目である。

## 【評価方法】

複数回のレポート提出および出席によって総合的に判断する。なお、追試験、再試験は一切行わない。

## 【テキスト】

帝国書院『新詳高等地図』1575円、帝国書院『新詳資料地理の研究』980円  
講義の中で適宜紹介する。

## 【参考文献】

田辺裕監修（1997）『図説大百科世界地理』、朝倉書店

## 哲学概論

担当教員 安次嶺 勲（前半）、武田 一博（後半）

対象学年 1年

開講時期 通年

単位区分 選必

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

この科目は、教職を目指す人のために、教科(中学社会科、高校公民)に関する専門的知識をさずけることを目的としています(ただし、卒業単位に組み入れることができます)。とくに高校で倫理を教える人を念頭に、授業をすすめます。内容は、前期には東洋思想を(安次嶺担当)、後期にはヨーロッパやアメリカの思想史を(武田担当)中心に行ないます。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ヴェーダ聖典群	17	西洋思想と東洋思想
2	ブラーフマナ文献	18	古代ギリシア思想Ⅰ
3	ウパニシャッド	19	古代ギリシア思想Ⅱ
4	原始仏教	20	キリスト教
5	仏教思想の発展	21	ルネサンス期の思想
6	儒教Ⅰ	22	近代西洋思想－合理主義
7	儒教Ⅱ	23	近代西洋思想－経験論
8	老荘思想	24	ドイツ古典哲学－カント
9	道教の思想	25	ドイツ古典哲学－ヘーゲル
10	恕今日・仏教・道教の思想的比較	26	19世紀の思想－功利主義
11	日本文化の基底にあるアニミズム	27	19世紀の思想－マルクス主義
12	アニミズムと仏教思想との融合Ⅰ	28	フロイト
13	アニミズムと仏教思想との融合Ⅱ	29	20世紀の思想
14	日本における仏教思想の諸相Ⅰ	30	ポストモダン思想
15	日本における仏教思想の諸相Ⅱ	31	後期試験ないしレポート提出
16	前期試験		

### 【履修上の注意事項】

前期は安次嶺勲が、後期は武田一博が担当します。  
私語と居眠りは、教室の外で行なってもらいます。

### 【評価方法】

成績は、前期と後期の試験ないしレポートを合計して評価します。試験ないしレポートの採点基準は、教職科目にふさわしく、厳しく行ないます。

### 【テキスト】

とくに指定はしません。

### 【参考文献】

## 日本史

担当教員 吉浜 忍

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考 日本文化学科・英米言語学科以外の全学科対象

## 【授業のねらい】

原始・古代から現代まで通史的に講義を行うが、その時代の象徴的な事件や人物などをテーマ設定する。講義は資料や図版・漫画・クイズなどを取り入れたビジュアルな自作のプリントで行い、テーマ素材の教材化の仕方や教え方に重点を置く。同時に、歴史に興味・関心を持たせることやテーマの時代背景や歴史的意義を理解させることも目標とする。歴史の流れやその時代の基本的な歴史事項や用語を理解させると同時に教材化の視点や方法を学ばせる。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス	17	ガイダンス
2	原始・古代①	18	近代①
3	原始・古代②	19	近代②
4	原始・古代③	20	近代③
5	中世①	21	近代④
6	中世②	22	近代⑤
7	中世③	23	近代⑥
8	中世④	24	近代⑦
9	中世⑤	25	現代①
10	近世①	26	現代②
11	近世②	27	現代③
12	近世③	28	現代④
13	近世④	29	現代⑤
14	近世⑤	30	後期まとめ
15	近世⑥	31	テスト
16	前期まとめ		

## 【履修上の注意事項】

教職課程を受講する者のみが履修できる。

## 【評価方法】

- ①出席・態度・意欲 10点  
 ②レポート(歴史人物の教え方について、前期・後期それぞれ一回) 40点  
 ③テスト(日本史の基礎・基本用語の記述式、前期・後期それぞれ一回) 50点  
 ①+②+③=100点満点で評価する。

## 【テキスト】

- ①テキストとして、毎回5枚前後のプリントを配布する。  
 ②「生きた教材」である実物資料を原則として毎回使用する。

## 【参考文献】

参考文献はテキストのなかに表記する。



## 法学概論

担当教員 長嶺 弘善

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

### 【授業のねらい】

わたしたちは、法の網の目に囲まれて生活している。法は、社会における人々の行為規範として機能しており、基本的人権の尊重や統治機構の規制にとどまらず、売買・消費貸借の契約遵守から、夫婦・親子関係の保護や人の生死にかかわる問題、そして違法行為に対する制裁など、多岐にわたる。講義は、現代の法にかかわる領域全般にわたって、できるだけ具体的事例に即しておこなう。受講生が、法の一般的な目的・機能を理解することを目標とし、そして身の回りに生起する具体的問題を法的に思考し、解決する助けとなることを期待する。

### 【授業の展開計画】

毎回の授業はそれぞれ異なる分野についておこなうが、法的思考において関連するので、休まずに出席することが、理解の助けとなる。

#### <前期>

1. 登録確認および導入：法現象
2. 六法の使い方：大学入学と単位
3. 社会規範：法と道德の異同
4. 法の存在形式：法源論と分類論
5. 私的自治：契約自由、法律行為
6. 契約の効力：適法性と無効・取消
7. 不法行為の成立：過失責任論
8. 不法行為の効果：損害賠償論
9. 婚姻：成立と夫婦財産
10. 親子：子の分類、親権
11. 離婚：成立と財産、子への配慮
12. 相続：遺言自由と遺産分割
13. 消費者保護：消費者契約法
14. 労働法：労働契約、労働基準
15. 前期試験

#### <後期>

1. 前期試験講評
2. 犯罪と刑罰：刑法の機能、罪刑法定主義
3. 犯罪と刑罰：「悪い行為」、民法との違い
4. 犯罪と刑罰：交通事故の可罰性
5. 立法府：国会、選挙、法定立
6. 行政府：議院内閣制、法執行
7. 司法府：裁判制度、法の番人
8. 憲法原則：統治章典、権利章典
9. 基本的人権：情報とプライバシー
10. 基本的人権：幸福追求権と平等権
11. 国際関係：国連と国際法の基本
12. 国際関係：条約と国内法
13. 国際紛争と国際平和
14. IT社会の法：電子消費者契約など
15. まとめ：法と正義
16. 後期試験

### 【履修上の注意事項】

テキストを一読し、六法を持参して出席し、講義に集中すること。質問大歓迎。  
講義の聞きっぱなしでなく、テキスト再読・ノート整理など、自学すること。

### 【評価方法】

前期・後期の期末試験（穴埋め式および正誤式）で評価する。出席を考慮する（1割程度）。

### 【テキスト】

講義にはテキストおよび六法（法令集）の2冊が必要である。開講時に紹介する。

### 【参考文献】

大村敦志『生活民法入門—暮らしを支える法』（東京大学出版会）、町野朔『プレップ刑法〔第三版〕』（弘文堂）初宿正典『いちばんやさしい憲法入門〔第3版〕』（岩波書店）、竜崎喜助『生の法律学』（尚学社）

## マルチメディア実習

担当教員 中西 利文

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 実験実習

単位数 1

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本実習では、まず最初に音声や静止画像、動画像の各種フォーマット、その特性を学び、次にアニメーション作成ソフトウェアを用いてコンテンツの制作を行う。作成したすべてのコンテンツをウェブ上で閲覧できるようにして、プレゼンテーションを行う。制作したコンテンツを受講者全員で評価して、その学習効果を議論・検討する。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	音声データおよび動画像データの種類・グラフィックソフトの種類
3	画像処理ソフトウェア（ドロー系、ペイント系）のデータ変換および加工作業
4	描画の基本操作
5	シンボルとインスタンス
6	アニメーションの基本
7	課題コンテンツプレゼンテーション 1
8	ボタンの構造と制御
9	ActionScript1
10	ActionScript2
11	ActionScript3
12	テキスト処理
13	外部ファイルの読み込み方法
14	課題コンテンツプレゼンテーション 2
15	総括
16	

## 【履修上の注意事項】

この実習は、教職課程「情報」の必修科目である。マルチメディア論を履修した者のみ登録を受け付ける。教職履修者は必ず、配当年次に受講すること。

## 【評価方法】

基本的に欠席は認めない。作成したマルチメディアコンテンツのプレゼンテーション(2回)と出席状況を総合的に判断し評価する。

## 【テキスト】

Flash8 デザインスクール／北川貴清／MdN

## 【参考文献】

開講時に指定する。

## 倫理学概論

担当教員 小柳 正弘

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

## 【授業のねらい】

倫理学とは人間はいかにあるべきかという問題を哲学的に考察するものである。哲学は本来対話を通して問題を多面的かつ根底的に検討する事をめざすものなので、この講義でも、受講者それぞれが書いたり話したり、グループで調査したり議論したり、といった（目に見える）形で「ともに考える」ことを中核に据える。テーマとするのは、倫理学の視点、生命倫理、人間の尊厳、隣人愛、自己決定などであり、倫理学上の問題に自力でとりくめるような能力の涵養をめざす（授業への実質的で主体的な参加が強く求められる）。★第1回のオリエンテーションに出席しなければ登録を取り消す。★

## 【授業の展開計画】

テキストの序論と第1部、配付資料、調査結果などを素材に、その回の授業のテーマについて、基本的には、(A) 小レポートを全員が書き、何人かの学生がそれに基づいて発言し、講義担当者も交えて質疑応答を行う、というやりかた、または、(B) 8名程度の小グループで議論(もしくは調査)して結論をまとめ発表し、他のグループや講義担当者と質疑応答・討論する、というやりかたで授業を進める。以下の項目は人数などとの関係で変更・入替をおこなうこともある。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション=欠席は原則登録不可	17	隣人愛(2) よきサマリヤ人のたとえ
2	グループ編成、ファイル作成、分担決定	18	隣人愛(3) どう読むか(八木/荒井/船本)
3	道徳と倫理(1)	19	隣人愛(4) どう読むか(雨宮/土井/星野)
4	道徳と倫理(2)	20	人間の尊厳(2) 法・福祉・倫理における一
5	道徳と倫理(3)	21	なぜ死んではいけないのか(1)
6	「よい」とはどういうことか(1)	22	なぜ死んではいけないのか(2)
7	「よい」とはどういうことか(2)	23	現代医療の功罪/ケアと自己決定
8	功利主義とその課題	24	脳死・臓器移植の倫理学的問題(1) 土屋
9	義務論とその課題/理念と現実	25	脳死・臓器移植の倫理学的問題(2) 田中
10	なぜ殺してはいけないのか(1)	26	先端医療・医療制度・超高齢社会の課題
11	なぜ殺してはいけないのか(2)	27	QOLと優生思想の問題点
12	なぜ殺してはいけないのか(3)	28	山田太一「車輪の一步」をめぐって
13	星野富弘の人生(神の愛とは何か)	29	ささえあいのかたち(苦悩・障害・ケア)
14	隣人愛(1) 系譜と展開・西洋と東洋	30	いのちのかたち(生み育む・よく生きる)
15	人間の尊厳(1) 系譜と展開	31	テスト(持ち込み不可)
16	前期のまとめ		

## 【履修上の注意事項】

第1回のオリエンテーションに必ず出席すること(出席しなければ、原則、登録を認めないし、実質、単位が取得できない)。

授業への実質的で積極的な参加を強く求める。

自分で考え、読んだり書いたりすることを通して、自分の言いたいことをきちんと話すことができ、他人の言いたいことをきちんと聞きとることができるような能力を練磨しようとする意欲や気概のある受講者を望む。

## 【評価方法】

テスト(持ち込み不可)=20点

「ともに考える」ことへの実質的な関わり(小レポート、発言記録票、グループ・ワークの記録など)の評価=80点(形式的な出席は評価の対象にしない)

\*私語や途中入退室など、授業へのネガティブな関わりは、ネガティブに評価する。

## 【テキスト】

工藤和男『いのちとすまいの倫理学』晃洋書房(1900円税別)=使用するのは序論と第1部 B5Eの紙製フラットファイル(学内の浅野書房で緑色のものを購入すること)。

## 【参考文献】

授業中に適宜紹介する。